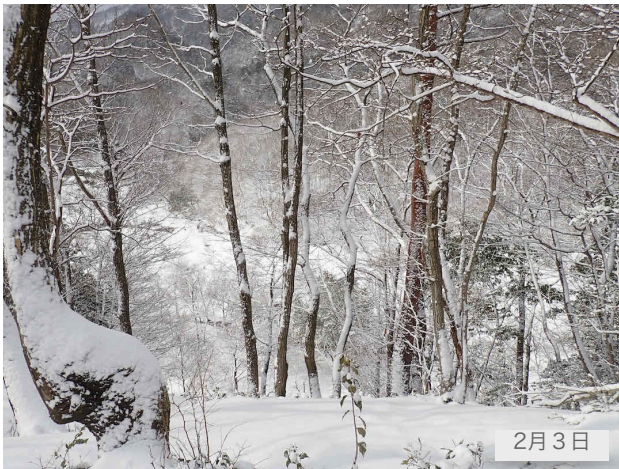


Yamakado News Letter



2月3日



2月27日

天然更新試験地 ネット再設置
2月22日南部湿原 ネット設置前の刈払
2月25日北部湿原 再設置前の除雪
2月25日北部湿原 再設置前の倒木処理
2月27日

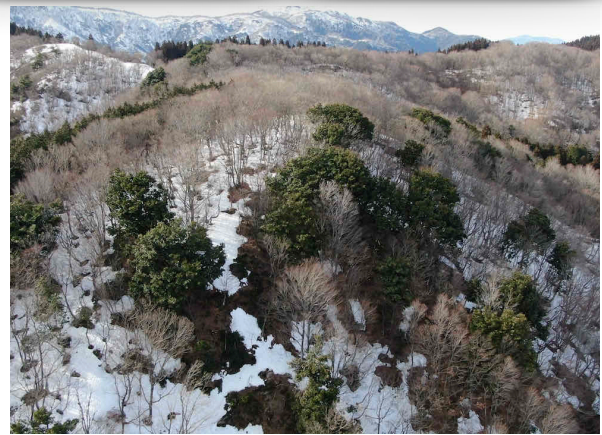
防獣対策の再始動

2月の前半は森全体が雪に覆われていましたが、月末には上層部を除いてほぼ消えました。湿原や天然更新試験地では器具の破損を防ぐため、積雪期間はネットを降ろしています。そのネット際の地面も半分以上が露出してきました。新芽も立ち上がってきており、シカの出入りが自由な状態は危険です。ネットの再設置が急がれます。

20日過ぎからネットの再設置作業に取り掛かっていますが、場所によってはまだ40cm程度残雪があったり、積雪による器具の破損、倒木などがあちこちにあり、思うように作業は進んでいません。暖かくなると来訪者の数も増えてきますが、コースには倒木や落枝も散在しており、これらの撤去整備も急がれます。

ブナの森などに設置した上層部のササ防獣ネットは、根雪になるタイミングでネットを外すのが難しく、例年春に破損箇所を修繕することで対応しています。今年はまだ残雪が多く、こちらも作業は進んでいません。

ドローン画像でもわかるように、同じ標高でも落葉樹と常緑樹ではその林床の残雪量が違いますし、空間の開けた湿地や草地は日当たりが良いので雪解けが進みそうに思えますが、実際は逆です。こうした雪の量にムラがある中での作業が厄介なところです。



中窓 守護岩付近 2月25日



南部湿原 2月25日

シカも森での活動を再始動

昨年度の糞粒調査では、天然更新試験地の近くのワクドキの森の調査区で、数年ぶりに糞粒の数値が高めに出了ました。これは往来するシカの数が増えたか、一頭あたりの滞在時間が長くなっている可能性も考えられます。そこで12月からこの区域にセンサーカメラを2台設置して観察を開始しました。そうしたところ、ほぼ毎日往来するシカが確認できました。

しかし、12月15日の降雪が根雪になり、以降はピタリと撮影記録がなくなりました。（正確には11日18時の撮影が最終）その後は、楽舎の積雪計の記録では1月26日まで50cmを下回ることはなく、そうした環境では、シカは移動する際に雪が腹がつかえるので、行動範囲が限定されると思われます。この時期にシカは何処でどのような暮らしをしているのか、対策資料として是非ともデータが欲しいところです。しかし残念ながら、2019年の年末に苦労して取付たGPS首輪は電池切れでデータは未回収となってしまいました。

雪の量が徐々に減っていき、2月10日を過ぎる頃にはササなどの下層植生が露出し始め、そうしたタイミングで、天然更新試験地のセンサーカメラに再びシカが記録され始めました。右の画像は低い枝の冬芽をしごいて食べている様子です。

この時期ネット際の一部で積雪量が多く、ネットを全周設置することが難しいので、罾を仕掛けて捕獲で対応を試みました。



天然更新試験地のネット下側 12月10日 18:36



天然更新試験地のネット下側 2月13日 17:42

今月の森の様子

ルリタテハに寄生した
ハチの繭と思われるもの 2月6日

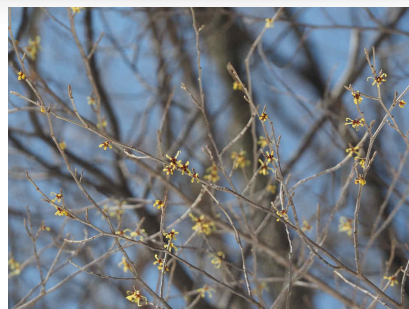
氷点下に下がった滝周辺の様子 2月9日



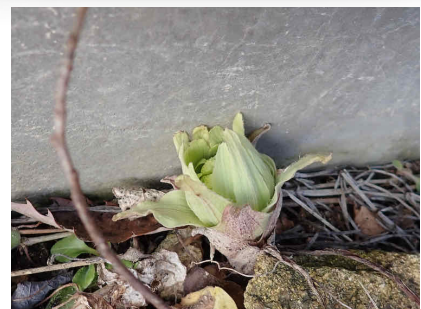
開花したユキバタツバキ 2月16日



開花したキヤマオウレン 2月16日



満開のマルバマンサク 2月21日



フキノトウ発見 2月25日